

# 秘密の地図展示中



駒澤大学所蔵外邦図展

平成三十年五月十二日（月）～三十日（金）

（但し日曜日休館）

駒澤大学禅文化歴史博物館

The Museum of Zen Culture and History, Komazawa University

〒154-8525  
東京都世田谷区  
駒沢 1-23-1  
TEL(03)3418-9610  
FAX(03)3418-9611



<http://www.komazawa-u.ac.jp/cms/zenbunka/>

秘密の地図展示中  
～駒澤大学所蔵外邦図展～  
解説リーフレット

## ～開催にあたって～

このほど「駒澤マップ・アーカイブズ」の活動の一端が公開されることになった。外邦図の整理・研究は、すでにいくつかの大学で進められているが、本学での特徴は、学生諸君がボランティアとして独力で行ってきたことである。この活動は 2004 年に、現在は名誉教授となられた中村和郎先生の指導の下で始められ、博物館学講座の太田喜美子先生や応用地理研究所のご助力を得ながら、地理学科と歴史学科の有志学生が続けてきた。故・多田文男先生が本学に残してくださった資料には、20 世紀の日本の地理学を知る上で貴重なものが多々あり、その一部は禅文化歴史博物館の地理学科・歴史学科創立 75 周年記念事業の企画展示や多田文男コレクション（DVD）などとして公開されてきたが、今回、さらに新たな一歩が加わることになる。

今回展示されている地図の多くは、整理の遅れていた中国・満州・朝鮮半島のコレクションから選んだものである。多田先生が精力的に調査された地域だけあって、清朝光緒年間の実測図や、明治初期にいわゆる秘密測量によって作成されたと思われる外邦図など、他大学にない貴重な地図も発見された。今後は、地図目録の刊行にむけて整理作業を続けていくと同時に、研究資料としての保存・活用にも目を向けていくことになる。これから皆様のご理解と励ましを頂ければ幸いである。

駒澤マップ・アーカイブズ顧問  
駒澤大学文学部地理学科教授  
佐藤 哲夫

## 秘密の地図展示中

### 駒澤大学所蔵外邦図展 解説

今回の展示では、外邦図の過去・現在・未来という流れで展示を行なう。外邦図の存在意義から、外邦図の現状、今後の展開などを展示する。各部屋には中国の地図を中心に、それぞれ明治・大正・昭和に作成された順で特徴ある地図を取り上げている。

#### ～外邦図がなぜ存在するのか（外邦図とは何か）～

明治中期以降、日本は近隣諸国への拡張政策（侵略）をとったが、それにもなつて主に軍の作上の必要から作られた膨大な地図がある。その作成範囲は、日本周辺は言うに及ばず、わが国の対外政策の変遷に応じて、シベリア、インドを含むアジア大陸内奥部までのほか、太平洋のほぼ全域とオーストラリア、北米にまで及んだ。これらを総称して外邦図と呼ぶ。外邦図は日本の統治時代に作成された朝鮮、台湾、樺太等およびこれらに準じる満州の一般図（ともに、秘図区域を除いて一般販売された）を包括して扱う。同様に、軍用として作られたものではないが、シベリアから、中央・南東アジアの全域と西太平洋地域について作られた百万分一東亜輿地図等の小縮尺編纂図も一括してここで扱う（長岡，1993 より抜粋）。

文献・長岡正利(1993) 陸地測量部外邦図作成の記録—陸地測量部・参謀本部 外邦図一覧図一。地図 31(4):12-25.



多田文男

#### ～外邦図がなぜ駒澤大学に存在するのか～

駒澤大学が所蔵する外邦図は、かつて地理学教室の教授であった多田文男が持ち込んだものとされている。多田文男は1900（明治 33）年に東京に生まれた。東京帝国大学理学部地理学科を卒業し、その後同大学の助手に就任し後に教授となった。日本の地理学・地形学、また駒澤大学の地理学科を大きく発展させた学者である。1941（昭和 16）年からは文部省資源科学研究所々員を兼任していた。1961（昭和 36）年に東京大学を定年退官し、同年に法政大学専任教授に就任した。1966（昭和 41）年からは駒澤大学専任教授に就任し、1978（昭和 53）年に亡くなるまで駒澤大学教授として在籍された。駒澤大学専任教授になる以前の1939（昭和 14）年から兼任の教員として教育に従事してきたので、今年で79年におよぶ教室の歴史の中で約40年間も駒澤大学のために尽力されたことになる。

1933年から1944年までの、朝鮮半島・中国の東北地方（満州）から蒙古への探検的調査を記録した17冊のフィールドノート（小池，2007）の存在で、少なくともこの11年間に外邦図を用いた調査をしていた事がわかっている。

第二次世界大戦の終結を迎え、外邦図が連合軍に接収されてしまう危機が迫った。地図は軍事上非常に大切なものだからである。多田や他の地理学者達は市ヶ谷の参謀本部にある外邦図を可能な限り多田らの勤める資源科学研究所へ運び出した（浅井，2007）。それ以外の多くの外邦図は焼却処分されたり戦後の混乱で散逸してしまったりした。その後整理作業を経てその多くが日本各地の大学や研究施設などに移された。これらの他に多田は、自身が調査・研究した朝鮮，中国，満州，蒙古等の外邦図ならびに東南アジア各地の相当枚数の外邦図を所有し、駒澤大学まで持ってきたものと考えられる。

文献・浅井辰郎（2007） 資源科学研究所の地図の行方—多田文男の英断。 お茶の水女子大学外邦図目録：5-10.

- ・駒澤大学文学部地理学科創立 75 周年記念誌。（2005） 駒澤地理 41：304p.
- ・多田文男（1978） 多田文男先生略歴および著作目録。 駒澤地理 14：263-271.
- ・小池一之（2007） 多田先生のフィールドノート駒澤大学大学院地理学研究 第 35 号:1

### ～外邦図の調査・研究の始まり～

外邦図については、軍用として秘密扱いのものであったため、関連する資料はないに等しかった（長岡，1993）。多くの関係者がまだ存命していた 1970（昭和 45）年までにまとめられた『測量・地図百年史』中に、地域別の網羅的な記述があるが、この原資料の現存については、今のところ不明である（長岡，1993）。

近年外邦図の学術的な価値が認められ、外邦図研究の気運が高まってきた。2002 年に大阪大学、京都大学が中心となり外邦図研究会の第一回研究会が行われた（小林ほか，2003）。研究会では研究発表は勿論、情報交換などが活発に行われている。2003 年に東北大学が外邦図目録を作成、また 2005 年には京都大学が目録を完成させ、2007 年にはお茶の水女子大学も目録を完成させている。大学の枠を超えた外邦図の利用が可能になりつつある。

2005 年にはインターネット上で外邦図の閲覧が可能な“外邦図デジタルアーカイブ”というサイトが立ち上げられた。専門家だけでなく一般の方も外邦図を見る環境が整ってきていると言えよう。

文献・小林茂・今里悟之・鳴海邦匡（2003） 本研究の経過。 外邦図研究ニュースレター，1：1-8

- ・長岡正利（1993） 陸地測量部外邦図作成の記録—陸地測量部・参謀本部 外邦図一覧図一。地図 31(4)：12-25.
- ・外邦図デジタルアーカイブHP <http://dbs.library.tohoku.ac.jp/gaihozu/>

### ～駒澤大学での調査・研究の始まり～

2003 年 11 月に駒澤大学で開かれた第 4 回外邦図研究会にて本学にも大量の外邦図が未整理のまま眠っていることが明らかになった。駒澤大学応用地理研究所や学生達が、その重要性を認識し 2004 年 4 月に駒澤マップ・アーカイブズという団体がつくられた。週に 1 回程度の活動で整理作業を進めて行った。また、夏季や春季休業中には合宿を行い精力的に活動した。2005 年度日本地理学会春季学術大会において、整理作業の成果や駒澤大学の外邦図の特徴などを発表した（大槻ほか，2005）。

2008 年現在も駒澤マップ・アーカイブズは活動を続けている。駒澤大学所蔵外邦図目録

の完成は目前に迫っており、今後すでに目録が完成している東北大学や京都大学、お茶の水女子大学との比較や学術的な利用のための情報交換が可能となるだろう。

文献・大槻涼・後藤慶之・上條孝徳（2005） 駒澤マップ・アーカイブズ. 日本地理学会発表要旨集 67：244.

### ～どこの大学に外邦図が存在するのか～

外邦図は戦後、参謀本部から直接運び出されたもの（東北大学・東京大学・名古屋大学・旧資源科学研究所）の他に旧資源科学研究所（1941～1971）から再分配されたもの（東京大学・京都大学・筑波大学・お茶の水女子大学・広島大学・立教大学・熊本大学など）、さらに旧資源科学研究所から再分配された機関や大学から譲渡、交換されたもの（国土地理院・大阪大学・岐阜県図書館など）、また外務省やさまざまな機関あるいは個人からの移管や寄贈によるもの（国立国会図書館）、さらに個人の寄贈によるもの（駒澤大学）など、いくつかに分類できる。日本国内における外邦図の分配に旧資源科学研究所の果たした役割は大きい。（久武，2005）。中でも整理作業が進み目録が完成している大学と、駒澤大学を比較してみた。

	総数(枚)	図幅数 (枚)	目録完成年
東北大学	約 70,000	12,402	2003
京都大学	13,495	11,712	2005
お茶の水女子大学	—	16,886	2007
<b>駒澤大学</b>	<b>10,296</b>	<b>約 8,000</b>	<b>2008 完成予定</b>

（久武，2003 図1より作成）

文献・久武哲也（2003）旧資料科学研究所所蔵の外邦図と日本の大学所蔵の外邦図の系譜関係. 外邦図研究ニュース  
レター, 1: 15-20

・久武哲也（2005）日本および外国の諸機関における外邦図の所在情報とその系譜関係. 地図情報, 25(3): 7-11

### 「運び出し苦労エピソード(参謀本部→資源科学研究所など各地へ)」

終戦当時、東大地理学科の助教授であり、文部省資源科学研究所の地理学部主任であった多田文男先生の書簡（1946）には、「地図取得については中野・三井・多田が終戦直後、参謀本部に日参して苦労して運び、車がないので肩に担いで、初めは大妻女子大学に移し、さらに大久保（資源科学研究所）に移しました。この努力は大変なものでした。資源科学研究所でも米軍が監督に来るときは、民家に移して接収を防ぎました。」

種類にして16000図幅、枚数にすれば恐らく十数万枚、噂ではトラック3台分ともいわれる膨大の地図を3人の方々の力で運んだ。この三井さんの話によると「終戦の9月に復員しました。運ぶのには、後に大八車も使いました。預けたのは大妻女子大学、続いて明治大学、それから資源科学研究所でした。この民家とは近くの金子材木店です」とある（浅井，2007より抜粋）。

文献・浅井辰郎（2007） 資源科学研究所の地図の行方-多田文男の英断. お茶の水女子大学外邦図目録：5-10.

## ～現在の地形図と比較したいいくつかの特徴～

- ・ 紙質は、和紙のように丈夫なものから、劣化し今にもパリパリに破れてしまいそうな紙もある。時代背景により印刷に使われる紙が違ったのだろう。
- ・ 外邦図の大きさは基本的には縦 46cm, 横 58cm だが、中には 100cm を超える大きい物も存在する。
- ・ 現在の本初子午線はグリニッジ基準だが、外邦図ではバタビア基準のものもある。
- ・ 凡例（地図記号・土地利用）が現在とは異なる。当時必要だったものが使われている外邦図「トロキナ」(\*1)のように日本の地名を付けてわかりやすくし、図中に「雲」と記載されているものもある。
- ・ 現在の地形図は3色刷りだが、外邦図の中には多色刷り（6～7色）のものもある。そこまで多くの色を使い、どのように複製されたかは興味深い。
- ・ 多田文男氏が実際に彩色した外邦図が、駒澤大学に存在する。
- ・ 同じ図幅でも、測図・発行年の違いにより記載内容が異なる場合がある。
- ・ 遠浅の海底に等深線の記載がある外邦図もある。
- ・ 測量精度の比較。現在とどの程度違っているのか、同じ地域で比較される研究もある。
- ・ 「マル秘」や「極秘」などの階級に分け、外邦図の機密性を区分している。
- ・ 現在も手に入らない地域の地図は、外邦図を利用して地形研究などが行われている。



(\*1)「トロキナ附近要圖」：駒澤マップ・アーカイブズの活動の一環として執筆させていただいた。

文献・中村和郎 編(2005)外邦図「トロキナ附近要圖」を読む。地図からの発想：34-35

### ～外邦図を利用していくには～

外邦図を整理して使いやすくする努力が近年行われてきているが、外邦図を利用した研究はあまり行われていない。そこで外邦図の利用方法を取り上げてみる。

- ・ 諸外国の現在の衛星写真等と比較し、地形の変化を見る。また土地利用の変遷を見る。その際に現在の地図とは制作方法、測地系等多くの違いが存在する。実際に資料として使用できるかどうかという検証をしっかりとした上での利用が重要になってくる。
- ・ 外邦図を測図年ごと・測図国ごと・地域ごと等に分類し、比較することでその特性をみることが出来る。
- ・ 特色ある凡例や表現を確認し、記載理由を考察する。「雲」と書かれているためその下は何も書かれていない地図や、海外の地図であるにも関わらず日本の地名がつけられている地図などが存在する。
- ・ 地図から歴史の背景をさかのぼっていく、時代による地域差を明確にするなど、その当時の様子をうかがい知ることが出来る。外邦図に書かれている地名は、その当時から存在したということの証明となる。
- ・ 現在の測量技術と当時の測量技術を比較する。測量の精度が今と昔では格段に違う。さらに戦争中という緊迫した状態で作成された地図では違うこともたくさんある。

### ～駒澤大学の外邦図をどのように利用していくか～

駒澤大学が他の大学と同様に今後どのように利用していくことが出来るか取り上げてみる。

- ・ 地域ごとに分類し、他の大学と保有を比較する。  
駒澤大学に存在し、他大学に存在しないもの。他大学に存在し、駒澤大学に存在しないものを分類し、駒澤大学オリジナルな外邦図の研究を展開していく。
- ・ 地域ごとに特徴をまとめる。  
外邦図にはさまざまな地域のものが存在する。地域ごとの特徴をつかむことで現在の国々とのかかわりを考察する。とりわけ駒澤大学にのみ存在する外邦図の特徴をつかむことが重要である。
- ・ 地図ごとに特色のある記載（表記、地図記号など）についてまとめる。  
表記や地図記号などに、今とは異なった記載が数多く存在する。それらの記載を集めると新たな発見が見つかるだろう。
- ・ 歴史の背景とともに日本がどんなものを使ったか調べる。  
地理的価値のある資料であるとともに、歴史的価値もある資料である。当時の様子を地図から伺うこともできる。歴史の事実との関わりでどのように外邦図が使われてきたか考察する必要がある。とりわけ時代による印刷された紙質を考察すると当時の社会状況がよくわかる。

### ～駒澤マップ・アーカイブズの予定～

- ・ 駒澤大学の外邦図目録を作成する。  
2004年に駒澤マップ・アーカイブズが結成した当時から進めていた外邦図の整理の区切りとして、駒澤大学の外邦図目録を作成する。
- ・ スキャンして、使いやすい状態を作る。  
外邦図のコピーを作り、いつでも地図を見られるようにする。電子媒体にすることで、地図の比較等に便利になる。さらにはインターネット上で公開できるようにしていきたい。
- ・ 文化財保護の観点から資料を保管、修繕について考える。  
貴重な資料であるので、今以上に劣化を防ぐために保護していく必要がある。現在は整理番号が図幅の左上に貼られているが、改善する必要がある。またよりよい環境で保管するように検討する必要がある。

駒澤マップ・アーカイブズの活動を通して、外邦図を地理や歴史の研究や卒業論文の資料として大学で活用して欲しい。



<駒澤マップ・アーカイブズの活動風景>

駒澤マップ・アーカイブズでは現在スタッフを募集しています。

その他、外邦図に興味を持った方、意見がある方はお気軽にご連絡ください。

<活動予定>

週1～2回、第一研究館5階の特4室・体育館1階の地図室で活動しています。

今年度は水曜日を中心に活動します。

<連絡先>

顧問 佐藤哲夫（地理学科教授）：第一研究館5階 佐藤研究室

代表 松田倫明（地理学科3年）：[1ng6092m@komazawa-u.ac.jp](mailto:1ng6092m@komazawa-u.ac.jp)

副代表 塚本仁美（歴史学科3年）：[1cx6015t@komazawa-u.ac.jp](mailto:1cx6015t@komazawa-u.ac.jp)



～展示一覧～

	展示場所	駒番	図版名(発行年)
1	企画展示室1 「多田文男と外邦図」	7165	向陽店(発行年不明(昭和15年複製))
2		7166	太原(発行年不明(昭和13年調製 昭和15年複製))
3		7173	翼城縣(発行年不明(昭和15年複製))
4		7172	新絳縣(発行年不明(昭和15年複製))
5		7167	交城縣/清水河(発行年不明(昭和15年複製))
6		1430-B-02	支那調査フィールドノート(大正13年)
7		1430-B-03	支那調査フィールドノート(大正13年)
8		1430-B-39	満蒙調査フィールドノート(昭和16年)
9	企画展示室2 「明治期の外邦図」	7164	武昌(明治43年)
10		7466	南昌(明治43年)
11		9085	清国盛京省(明治17年創製)
12		9097	揚州城(実測 光緒34年)
13	企画展示室3 「大正期の外邦図」	5196	上海(大正15年)
14		6684	洞庭湖(大正11年)
15		6708	藍田(大正12年)
16		6839	雲和(大正元年)
17		7443	奉天(大正15年)
18		2479D~G	セイロン島(昭和17年複製)
19	企画展示室4 「昭和期の外邦図」	6889	香港(昭和18年)
20		6970	束龍當(発行年不明(昭和19年製版))
21		6841	星子墟(発行年不明(昭和18年製版))
22		6900	三柏墟(発行年不明(昭和19年製版))
23		6301	堰掌鎮(発行年不明(昭和16年複製))
24	回廊	4713	齋齋哈爾(昭和17年)
25		4714	海倫(昭和7年)
26		4715	海倫(昭和17年)
27			東北大学所蔵外邦図目録(平成15年)
28			駒澤大学外邦図仮目録(平成20年)

(編著)

上條孝徳(\*1)・後藤慶之(\*2)・森田純平(\*3)・駒澤マップ・アーカイブズ

(\*1)07年卒業 現首都大学東京大学院博士前期課程 (\*2)07年卒業 現明星大学通信教育課程 (\*3)08年卒業 現首都大学東京大学院博士前期課程

2008年5月11日編集